

第3学年国語科学習指導案

日時 平成17年10月5日(水)5校時
学級 3学年(男子20名 女子15名 計35名)
場所 3年教室
授業者 藤澤 昌裕

1 単元名 四 状況に生きる 『お辞儀するひと』

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、小説「故郷」随筆「二つの悲しみ」詩「お辞儀するひと」の3つの作品からなっている。表現形式も背景となる時代も異なるが、様々な状況に真摯に向き合う人間の姿が共通して描かれている。風景描写や人物描写に優れ、対比・比喩・語り手の視点など、表現の特徴に注意して読むことに適している。

生徒はこれまで、「麦わら帽子」「大人になれなかった弟たちに...」「少年の日の思い出」(1年)「ゼブラ」(2年)の学習を通して、言葉や表現に着目して作品を読み、学習を深めてきた。本単元は、本格的に「読むこと」の学習に取り組む3年間での最後の教材である。表現の特徴に親しみ、叙述に即して読み取り、さらに自分の考えを深め、他と交流し、視野を広げることに適した教材である。

「お辞儀するひと」は、中国残留孤児について報道した一枚の新聞写真に触発され、綴られた詩である。肉親を探して訪日したものの、肉親に巡り合うことができなかった女性が、「日本が私の生みの親、中国が育ての親です」と答えたり、「だれにともなく深く一礼」する。その姿に、過酷な運命にさらされながらも、感謝の念を持ち気丈に生きる人間の姿を見出し、美しさと哀しさを感じた作者の思いが表現されている。この詩が生まれるきっかけとなった残留孤児団の訪日は、戦後40年経った昭和60年である。「戦争」は未だ大きな傷跡を残していることを改めて私たちに問いかける内容ともいえる。強い感情を表す表現はないが、淡々とした筆致の中でも、副詞や形容詞の効果、比喩などの表現により、読み手の心に深く食い込んでくる。

進路を意識し始めた中学3年生にとって、これら3つの教材に取り組むことは、社会と自分との関わりの中で自分を見つめるきっかけとなるだろう。

(2) 生徒観

授業における意欲は高く、明るく素直な生徒たちである。発言も多く、特に男子生徒が授業をリードする。発言が少ない生徒も、作文などの作品や自主学習の様子から、誠実に取り組む姿勢を見て取ることができる。開校の年に入学し、学級や個々の様々な問題に全員で真摯に向き合ってきた生徒たちである。

昨年12月実施のCRTにおいて、学年得点率としては4領域全て全国比を超えている。しかし、全国比は高くとも得点率そのものが7割弱の「書くこと」「言語事項」、得点率が全国より1ポイント上回った状態の「読むこと」など、課題は多い。「読むこと」に関しては、「文章の特徴に注意して読むこと」での落ち込みが見られる。作品を読み、そのあらすじから感想を持ったり、主題を想像する傾向があり、一つ一つの言葉を吟味して、言葉に根拠を持って読み取ることが苦手である。また、「言語事項」の落ち込みがある生徒が数人、自身の課題を抱え十分な定着がなされていない生徒が複数おり、それらの生徒への具体的な支援が課題である。

(3) 指導観

生徒の実態を踏まえ、「読むこと」指導事項ウ(表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと)エ(文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つこと)に重点を置いて、単元の計画を組みたい。表現の特徴や時代背景や状況との関わりに注意して読み、特に、人物や情景の描写に注目して読み深めていく。単元の中では、個人で読み進めるだけでなく、班での意見交流やコース別のグループ(例えば、主人公の心情に注目して読み取る・表現に注目して読み取る・時代背景に注目して読み取るなど)など形態も工夫したいが、最終的には個人で考え、個人として意見をまとめるように進めたい。一斉授業において個に応じた指導は、個々の実態を把握することが前提である。定着を図りたい事項、さらに伸ばしたい事項など、指導事項を明確にし、教材教具の工夫や机間指導など、支援を要する生徒への手立てを講じていきたい。

3 単元の目標

- (1) 文章や作品を通して様々な状況と対峙して生きる人間の姿をとらえようとし、自分の考えを深めることができる。
(関心・意欲・態度)
- (2) 形式や表現に注意して、読み手を意識した文章をまとめることができる。(書くこと)
- (3) 構成や表現に注意して、聞き手を意識したスピーチをすることができる。(話すこと・聞くこと)
- (4) 表現の仕方や特徴に注意して、主題を読み取ることができる。(読むこと)
- (5) 表現技法や文脈の中における語句の意味を理解することができる。(言語事項)

4 単元の指導計画と評価基準(15時間)

| 時間 | 学 習 活 動 | 評 価 規 準 | | | | | |
|-------------|--|--|-----------|---|---|-------------------------------|------------------------------------|
| | | 国語への関心・意欲・態度 | 話すこと・聞くこと | 書くこと | 読むこと | 言語についての知識・理解・技能 | |
| 1 | 「お辞儀するひと」を読み、大まかな内容をとらえる。 | 作品の背景となる状況に関心を持ち、大まかな内容をとらえようとしている。 | | | 作品の背景となる状況をとらえ、大まかに内容を読み取ることができる。 | 歴史的仮名遣い、詩の形式、表現技法を理解することができる。 | |
| 2 本 時 | 作品に込められた作者の思いを読み取り、主題をとらえる。 | 進んで発言しようとし作品に込められた作者の思いを読み取るようとしている。 | | | 作品に込められた作者の思いを表現の特徴に注意して読み取ることができる。 | | |
| 3 | 「故郷」を読み、背景となる時代の状況を知り、大まかな内容をとらえる。 | 背景となる時代の状況をとらえ、大まかな内容をとらえようとしている。 | | | 作品の背景となる状況をとらえ、大まかに内容を読み取ることができる。 | | |
| 4 5 6 | 風景の描写、現在と過去の対比、私とルトウ・ホンルとシュイシヨンの対比など課題を設定し、グループ別に読みを深める。 | 読み取りの視点を選び、文章の特徴に注意しながら、叙述に即して読み取るようとしている。 | | | 文章の特徴に注意しながら、対比、風景描写、心理描写など、叙述に即して読み取ることができる。 | | |
| 7 8 | それぞれの読み取りを交流し、作品の主題を読み取る。 | 読み取ったことを交流し合い、自分の考えを深め、主題に迫ろうとしている。 | | | 自分の課題にそって、作品の主題を読み取ることができる。 | | |
| 9 | 「二つの悲しみ」を読み、大まかな内容を読み取る。 | 背景となる時代の状況をとらえ、大まかな内容をとらえようとしている。 | | | 作品の背景となる状況をとらえ、大まかに内容を読み取ることができる。 | | |
| 10 | 「戦争で失ったもの」をとらえ、「二つの悲しみ」の主題を読み取る。 | 状況の中で生きる人間の姿を読み取り、主題に迫ろうとしている。 | | | 作者が何を問いかけているか読み取り、主題に迫ることができる。 | | |
| 11 | 読み手を意識し、形式や表現の仕方や文章の形式について理解する。 | 読み手を意識した表現の仕方や文章の形式について理解しようとしている。 | | 感想文・詩・意見文など文章の形式を理解することができる。 | | | 相手に伝える文章の構成に注意して、自分の考えをまとめることができる。 |
| 12 13 | 「状況と人間」について、自分の考えを読み手を意識した文章をまとめる。 | 「状況と人間」について自分の考えが伝わるように書き方を工夫しようとしている。 | | 「状況と人間」について、読み手を意識して400字程度の文章にまとめることができる。 | | | |

| | | | | | | |
|----|--|--------------------------------|--|--|--|----------------------------|
| 14 | 聞き手を意識した話し方について理解し、構成や表現の仕方を工夫してスピーチ原稿をまとめる。 | 聞き手を意識したスピーチを工夫しようとしている。 | 構成や表現を工夫したスピーチについて理解し、スピーチ原稿をまとめることができる。 | | | 聞き手を意識した話し方について理解することができる。 |
| 15 | スピーチの会を開き、自分の考えを聞き手を意識して発表する。 | 聞き手を意識し、自分の考えをわかりやすく伝えようとしている。 | 聞き手を意識し、自分の考えをわかりやすく伝えることができる。 | | | 適切な音量、間などに留意して発表することができる。 |

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・進んで発言しようとし、作品に込められた作者の思いを叙述に即して読み取ろうとしている。(関心・意欲・態度)
- ・作品に込められた作者の思いを表現の特徴に注意して読み取ることができる。(読むこと)
- ・文中の重要語に気づき、文脈の中で用いられている意味を正しく理解することができる。(言語事項)

(2) 本時の構想

まずは音読から始めたい。内容を確認するとともに、声を出すことで授業への意欲を高めさせる。前時までには詩の形式や表現技法などの言語事項の理解と残留孤児についての理解を深め、本時は作品に込められた作者の思いを読み取らせながら、表現の仕方や特徴に注意して読む力を高めたい。

本時における個への支援は、板書や学習シートの工夫の他、作品に込められた作者の思いについて読み取ったことを書かせる場面での机間指導の際に行なう。

(3) 本時の具体的評価規準(観察法、ノート、学習シート)

| 観 点 | おおむね満足できる(B) | Bのうち十分満足できる(A) | 支援を要する生徒への手立て(C) |
|--------------|---|---|---|
| 国語への関心・意欲・態度 | 意欲的に音読し、作品の込められた作者の思いを読み取ろうとする。 | 自分の考えを進んで発表することができる。 | 机間指導を行い、声をかけ、支援する。 |
| 読むこと | このような状況にあってもお辞儀する桂琴さんの思いや生き方に対する感動について読み取ることができる。 | 桂琴さんの状況が好転することへの祈り、戦後40年経ても、桂琴さんのように戦争の傷跡を残しつつなげに生きている人々がいることを伝えたい思いについて読み取ることができる。 | 板書や友達の発表、前時のノートなどを参考に書かせ、Bへと近づけるよう支援する。 |
| 言語事項 | 文中の重要後に気づき、文脈の中で用いられている意味を正しく理解することができる。 | 語彙を豊かにすることができる。 | ノート指導、期間指導を行い、支援する。 |

本時における支援を要する生徒への手立て

Bへと近づけるために、次のような手立てを組む。

机間指導 前時の学習内容をまとめたもの(紙板書・教科通信)に注目させる。また、学習シートを工夫する。

- 詩の内容に根拠を持ってない。 ・イメージで読むのではなく、詩の語句や表現に根拠を持つことを確認する。
 ・前時のノートや教科通信を見直させる。

- 書くことのイメージがつかめない。 ・板書を参考にさせる。

- 書く力が弱く、取り掛かれない。 ・書き出しのヒントを与える。

「この詩には、作者の な思いが込められている。なぜならば～」

(4) 本時の展開

| 段階 | 学 習 活 動 | 評価規準・方法 | 指導上の留意点 |
|--|--|--|---|
| 導入 10分 | 1 詩の音読を行なう。 ・一斉読み ・指名読み 2 前時の振り返り 3 本時の学習課題を確認する。 | ・適切な音量で読むことができる。 (観察) ・ノートに学習課題を書くことができる。(ノート) | ・テンポよく進め、意欲を喚起する。 ・歴史的仮名遣いに注意する。 ・指名読みは、挙手による。挙手がなかった場合、豊かな読みが期待される生徒を指名する。 ・紙板書 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 作品に込められた作者の思いをとらえよう </div> | | | |
| 展 開 35分 | 3 桂琴さんに注目した理由をとらえる。 ・「私」は「写真」のどの人物に注目していますか。 ・なぜ劉桂琴さんに注目しているのですか。 ・なぜ、劉桂琴さんは、一行から離れているのですか。 ・桂琴さんは誰に向かってお辞儀をしているのですか。 4 作者が桂琴さんのお辞儀をどう感じたかとらえる。 ・「だれにもなく(深く一礼)」と「だれにもなく」との違いは何ですか。 ・作者はこのお辞儀をどんなお辞儀といっていますか。 ・なぜ、そう感じたのだろう。 5 「東京の空までが、春近い気配にうらみ、じっと雨を耐へてみる朝だ。」の擬人的な表現を読み取る。 ・春近い気配にうらみ、雨を耐えているのは何か ・空以外に春近い気配にうらみ、雨を耐えているものは何か。 6 作品に込められた作者の思いについて、読み取ったことを書く。(学習シート) このような状況にあっても、お辞儀する桂琴さんの思いや生き方に対する感動 桂琴さんの状況が好転することへの祈り 戦後40年経ても、桂琴さんのように戦争の傷跡を残しつつ、けなげに生きている人々がいることを伝えたい思い 7 発表する。 | 【期待する生徒の反応】 劉桂琴さんに注目している。一行から離れ、他の団員と様子が違う。両手の荷物を置き、深々と丁寧なお辞儀をしている。特定の相手はおらず、だれにもなくお辞儀する姿にひかれている。 【期待する生徒の反応】 ・前者は引用、後者は、作者の思いである。「！」から驚きを読み取れる。肉親に会えず過酷な状況にあっても、「生みの親」である日本(あるいは日本人全体)へお辞儀する姿に美しさを、だれにもなくお辞儀せざるを得なかったところに哀しさを感じている。 【期待する生徒の反応】 単なる風景描写ではなく、事態が好転することを祈り、悲しみを耐えている(涙)様子を表した表現。 | 第三連を中心に発問をしながら、作者の思いを読み取らせる。 ・倒置法の確認 「かつて見たことがない、ただの一度も」と「かつてただの一度も見たことがない」との違い ・擬人法の確認 ・副助詞「まで」の確認 <div data-bbox="708 1391 1418 1733" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価方法(観察・学習シート) 支援の手立て</p> <p>A に加えて の思いを読み取ることができる。 シートの感銘記入を進ませる、</p> <p>B の思いを読み取ることができる。 前時の学習を振り返らせせる。</p> <p>C 机間指導をして、支援する。</p> <p>詩の内容に根拠を持たない 前時のノート・教科通信を見直させる。</p> <p>書くことのイメージがつかめない、 板書を参考にさせる。</p> <p>書く力が弱く、取り掛かれない、 書き出しのヒントを与える。</p> </div> |
| 終 末 5分 | 8 発表を聞いて、新たに読み取ったことや気づいたことを書き足す。 9 次時の予告をする。 | 中国を舞台とした小説を読むことがわかる。「状況に生きる」のねらいにふれる) | ・赤ペンで記入させ、生徒の変容がわかるようにし、生徒の実態把握と事後の支援に生かせるようにする。 |

